

下部白亜系宮古層群のストーム卓越型浅海成シーケンスにおける軟体動物化石層

望月浩司*・安藤寿男**

*茨城大学理工学研究科地球生命環境科学専攻（現基礎地盤コンサルタンツ株式会社北海道支社）・**茨城大学理学部地球生命環境科学科

Molluscan fossil beds in the storm-dominated shallow-marine sequences of the Lower Cretaceous Miyako Group

Koji Mochizuki* and Hisao Ando**

*Graduate School of Science and Technology, Ibaraki University, Mito 310-8512, Japan. (Hokkaido Branch, Kisojiban Consultants Co., Ltd., 7-2 Kikusui, Shiroishi-ku, Sapporo 003-0807, Japan); **Department of Environmental Sciences, Faculty of Science, Ibaraki University, Mito 310-8512, Japan (ando@mx.ibaraki.ac.jp)

Key words: fossil beds, Lower Cretaceous, Miyako Group, storm-dominated shallow-marine sequence

岩手県陸中海岸に分布する下部白亜系宮古層群は、ストーム卓越型浅海の砂岩を主体とするアプチアン後期からアルビアン前期の地層で、軟体動物化石を多産する。田野畑層および平井賀層、明戸層には、相対的海水準変動によって形成されたとみなされる、主に上方粗粒化（浅海化）堆積相サクセッションからなる16層のシーケンス（DS）が確認できる。特に平井賀南岸の平井賀層では、産状の異なる3タイプの化石層（図1）が識別でき、それらがDS内の相対的な位置や堆積相に応じて分布することが観察でき

る。図2のDSでは、最も細粒な層準はシーケンス境界（SB）から約1.6m 上位の位置にあり最大海氾濫面（MxFS）とみなされる。その上下はそれぞれ、高海水準期堆積体（HST）、海進期堆積体（TST）と解釈できる。そして、化石層タイプ1はTST上部のMxFS直下、タイプ2はHST最下部、タイプ3はHST上部に相当する層準に見られる。

(2003年1月23日受付 2003年5月23日受理)

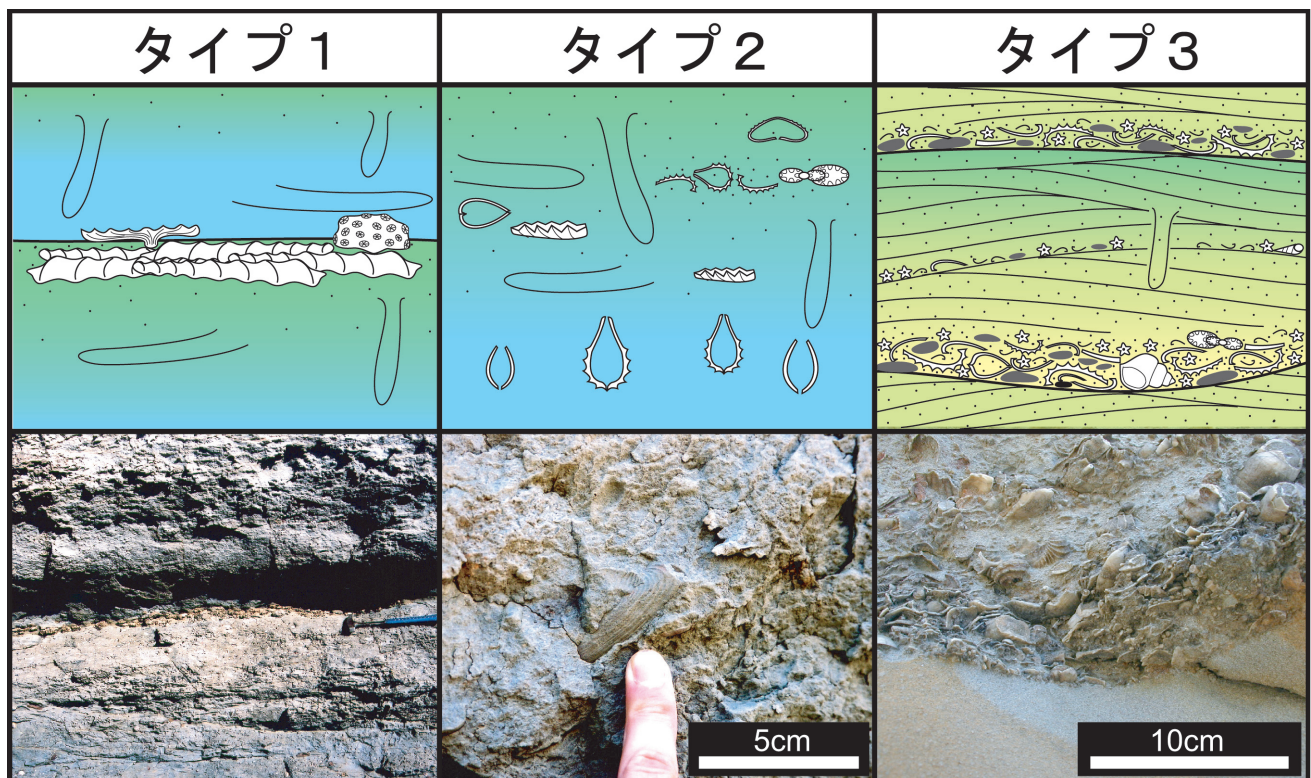


図1. 平井賀南岸の平井賀層で識別できる3タイプの化石層、タイプ1：外側陸棚の砂質シルト岩中にネリネア類の *Archimedeia rigida* とサンゴがシート状に密集；タイプ2：内側～外側陸棚の砂質シルト岩中に *Cercomya gurgitis* や *Panopea plicata* (図2) 等の深潜没二枚貝が合弁で生息姿勢を保って散在；タイプ3：内側陸棚相のHCS（ハンモック状斜交層理）砂岩や下部外浜相の癒着HCS砂岩中に、*Pterotrigonia hokkaidoana* や *Astarte minor* 等の浅潜没二枚貝を中心に、腹足類、アンモナイト、ウミユリなどが、薄いラグや葉理として密集。

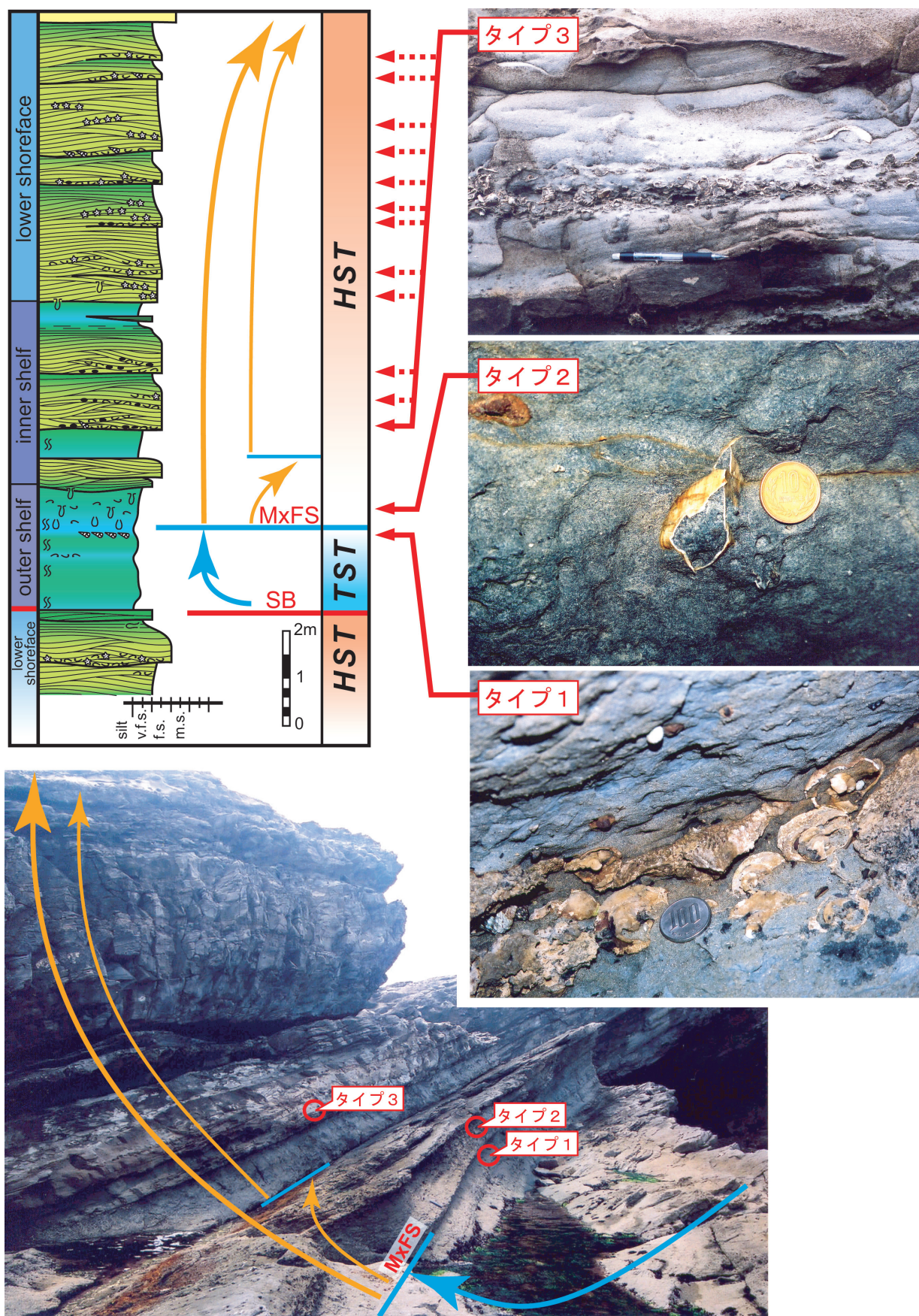


図2. 平井賀南岸の平井賀層上部の下部におけるシーケンスと化石層の産出様式. 記号は本文参照. オレンジ矢印: 上方粗粒化堆積相サクセクション; 水色矢印: 上方細粒化堆積相サクセクション. タイプ3の写真は赤色実線矢印で示した層準のものであるが, 赤色破線矢印で示した層準にもタイプ3が見られる.